

毎年8月にどんぐりの結実状況を調査しています。この調査は、ツキノワグマの秋期の人里への出没を予測し、地域の方への注意喚起に役立てることを目的としています。秋期のクマは、越冬や出産のために栄養を蓄えなければならず、どんぐりの結実状況が悪いと標高の低いところまで行動範囲を広げることから特に注意が必要とされています。しかし、様々な要因で豊凶^{ほうきょう}の変動があるどんぐりの結実状況は予測できないため、毎年全国各地で調査が行われています。

クマが通常生息している市の西側にある山地での調査の結果、今年是不～並作で昨年の並作に比べると少ないことが分かりました。平成25年からの経過を見ると、結実状況が良かった翌年に悪くなると人里へクマが出没する傾向があります。人里にクマを誘引した物として、栽培品種のクリやカキ、キウイフルーツ、生ごみ、養蜂用の巣箱、放置された農作物、果実が入っていた空き箱などが報告されています。そのため、誘引物を取り除いておくことが野生動物と人の接触を減らし、地域の暮らしを守ることにつながるので今年もご協力をお願いします。

どんぐりはブナ科の果実の総称で、結実調査ではブナ、ミズナラ、コナラ、ヤマグリ^{ヤマグリ}の4種を調べています。この4種のどんぐりは、クマの他にイノシシやサルなどの大型哺乳類からリスやネズミなどの小型哺乳類、オシドリなどの鳥類、そして昆虫類まで多様な野生動物が利用していることを確認しています。多様な野生動物に利用されるどんぐりですが、市の西側に広がる山地では人が植えた針葉樹林の割合が圧倒的に多く、どんぐりや四季折々の果実が実る広葉樹林は少ないのが現状です。だからこそ、人が自然に配慮し用心する必要があります。

実ったどんぐりが地面に落下した後、紅葉の時季を迎えます。1年を通して青々とした針葉樹林と美しく紅葉した広葉樹林を眺めて、野生動物が暮らす環境について考えを巡らせてくださる方が少しでも増えることを願います。

(加瀬澤)



乾燥しないように根を張って
冬を越すため発根し始めたミズナラ

森林レンジャーあきる野 市が取り組んでいる「郷土の恵みの森づくり」を進める専門集団。尾根道の補修や景観整備事業などの調査、計画立案等を地域と協働で実施。市内で生息する動植物の調査や、滝・巨木など、地域資源の掘り起こしも行っている。

問合せ 環境政策課環境の森推進係